

白山神社本殿 付棟札4枚

図1

- さんげんしゃながれづくり
- ※1. 三間社流造…「流造」とは神社建築様式のひとつ。屋根が反り、屋根が前に曲線形に長く伸びて向拝（庇）となったもの。「三間社」とは、正面の柱の数が四本ある＝柱と柱の間が3つあるということ。（図1 で示した部分）



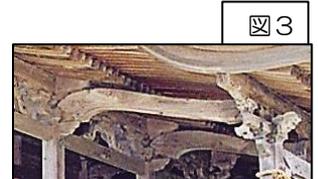
- ひじき
- ※2. 肘木…建築物の柱上にあつて軒を支える部分のうち、前後または左右に腕のように渡した横木のこと。上からの荷重を支える。（図2）



- もや
- ※3. 身舎…主に寝殿造以前の古い建築様式の建物において、主要な柱に囲まれた家屋の中心部分。（図1 で示した部分）

- こうはい
- ※4. 向拝…仏堂や社殿の屋根の中央が前方に張り出した部分のこと。（図1 で示した部分）

- えびこうりょう
- ※5. 海老虹梁…側柱と本柱など、高低差のある所に用いる、エビのように湾曲した水平材。ここでは向拝の柱と本屋の柱の間に用いられている。唐様建築の特色のひとつ。（図3）



山口家住宅 付普請関係文書2冊

- ※1. チョウナバリ…肋骨のように端の曲がった形をした梁。まっすぐな梁に比べ、上からかかる重さに対する強度がある。合掌造りなど、雪国の古民家によく見られる。



木造聖観音立像

- ぞうこう
- ※1. 像高…台座などを除いた、仏の体じたいの高さ。
- いちぼくづくり
- ※2. 一木造…頭部から体幹部を1本の木材から像を丸彫した継ぎ目のない像のこと。腕、膝などを別の木で造ったものも含まれる。
- うちぐり
- ※3. 内刳…木像の内部をえぐり空洞にする技法。
- そじ
- ※4. 素地…着色などの加工がされていない、自然のままの状態・材質。
- こしも
- ※5. 腰裳…腰まわりの布。（右図 で示した部分）
- ほうけい
- ※6. 宝髻…髻（もとどり）とは、髪を頭の上で束ねたもの、またはその髪型。仏像の髻部分の名称を宝髻という。（右図 で示した部分）



木造十一面観音立像

てんかんだい

- ※1. 天冠台…宝冠を受けるくり出しの部分。(右図  で示した部分)



能生白山神社の海上信仰資料

かいせん

- ※1. 回船…船を用いて荷物や客を港から港へ運ぶこと。海運。

ぶね

- ※2. ハガセ船…江戸時代中期ごろまで回船に用いられた船の種類。船底が平らで頑丈。荒波や岩礁の多い日本海の航行に適していたが、帆走性能が低く、多くの漕ぎ手を必要とすることから経済性が低く、弁財船に海運の主力の座を奪われていった。

越後姫川谷のボッカ運搬用具コレクション

- ※ 代表的な運搬用具

ショイコ…これに荷をくくり、背負って歩いた。(写真左)

ニヅンボウ…歩くときに道をならしたり、尻を載せて立ったまま休憩するのに使った(写真右)



根知山寺の延年

よいみや

- ※1. 宵宮…本祭の前夜に行う祭りのこと。

長者ヶ原遺跡

りっせき

- ※1. 立石…大きな河原石を地面に穴を掘って立てたもの。

ほったてばしら

- ※2. 掘立柱建物…太い柱を地面に立てて並べた細長い建物。

長者ヶ原遺跡から出土した掘立柱建物の遺構は広場に面して建てられており、囲炉裏が二つ設けられていた。竪穴住居とは建てられた位置や大きさ・形が違うことから、住居とは異なる意味をもつ建物だったのではないかと推測されている。



【参考】遺跡・遺構・遺物のちがい

遺跡…昔の人々が生活した跡のこと。

遺構…遺跡から見つかるもののうち、動かせない・不動産的なもの。

例：建物の跡、焚火のあと、墓、給排水の溝など

遺物…遺跡から見つかるもののうち、小型で動かせる・動産的なもの。

例：土器、石器、金属製品、人や動物の骨、植物の種など

松本街道

きたまえぶね

※1. 北前船…江戸時代から明治時代にかけて活躍した回船。また、それに使われた船の総称。

おくのほそ道の風景地 親しらず

親不知は県と国両方からそれぞれ文化財に指定されており、名称と指定範囲が異なります。

指定者	国	県
名称	おくのほそ道の風景地 親しらず	親不知子不知
指定範囲	